たうんとぴっくす

TOWN TOPICS

まちの話題や出来事を紹介します

市長日記

救助現場に新風

12月2日に、安来市消防本部に導入された救助工作車について説明を受けました。

火災や交通事故、自然災害などあらゆる場面で利用される救助工作車。「使用する機会がないのが一番だが、有事の際は、この車両を活用し、より安全で迅速な救助活動につなげてほしい」と、消防職員を激励しました。

◀旧来の車両に比べ、無駄のない資材配置が可能。車内で協議等もできます。

このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック」で公開しています。

今月の1枚

「おやこｄｅサタデー」を定期開催している子育て支援センター。今回は、社会人吹奏楽団「やすぎハーモニアス」による演奏や、絵本の読み聞かせなどを実施。集まった約30人の子どもたちは、音楽やサンタの登場に嬉しそうな表情を見せていました。　12月21日：健康福祉センター

わくわくどきどき体験

▲専用機器を利用して本当にどじょうすくいをしているような体験ができる「どじょうすくいＡＲ」。

11月30日と12月1日の2日間、情報科学高校で「第9回情報ＩＴフェア」が開催されました。生徒が企画するＩＴ技術の体験ブースやＩＴ企業とのコラボブース、ｅスポーツ大会など盛りだくさん。

自分で描いた魚やイカが大きなスクリーンを泳ぎまわる動くぬりえ水族館は、生徒たちのサポートで小さな子どももすぐに楽しめ、順番待ちになるほど盛況に。生徒たちが日頃学んでいるプログラミングやＩＴに関する知識を生かし、来場者にわくわくどきどき体験を届けました。

アートで促進、相互理解

毎年12月3日～9日は「障害者週間」で、障がいのある人のあらゆる分野への活動参加を促進するため、さまざまな活動や取り組みが行われています。

市では、アルテピアで13日から16日まで「第16回安来市障がい者ふれあい作品展」を開催。障がいのある人が日頃取り組んできた成果物や、趣味の作品などを展示しました。絵画を出展した男性は「他の人の作品を見て、次は貼り絵をしてみたいと思いました」とさらなる創作意欲をかき立てられていました。

▲絵画や書道、手芸品、ダンボールや木を使用した立体作品など、多種多様な114点を展示。

▲あかえこども園の児童は自作の銭太鼓で安来節披露。難しいパートも意欲的に練習してきました。

広がるたすけあいの輪

「安来市民余芸大会」が、12月８日にアルテピアで開催されました。５回目の開催を迎え、12月の恒例行事となりつつある今回は参加団体もさらに増え、27組324人が出演。市内のサークルやこども園などの出演者が、日頃の活動の成果を発表したり、練習してきた技を披露したりしました。

この日の収益金は68万5300円。主催の山陰中央新報社・やすぎどじょっこテレビ・安来市社会福祉協議会・安来市から市共同募金委員会へ寄託され、地域福祉活動に利用されます。

一人一人が人権について関心を持つ、偏見や差別のない社会を実現するため、安来市で毎年開催している「つなげて未来や」。今年度は「しまね人権フェスティバル2024」を、12月１日にアルテピアで島根県と合同開催しました。

県内の人権団体など27団体が出展。缶バッジなど日常的に目に留まるグッズの配布、動画上映、競技用車いすやボッチャ（すべての人が競い合えるようできたスポーツ）の体験など、工夫を凝らした企画がさまざまな人の関心を集めていました。

誰もが自分らしく

▲やすぎ女男輝らり会の啓発ブース。クリスマスツリーも緑と決めつけず、自分らしい色に。

シリーズ インターハイの舞台から②

問い合わせ　地域振興課　☎23-3076

令和７年度インターハイ（全国高等学校総合体育大会）で、フェンシングの競技会場となる安来市。

市民がスポーツに親しむきっかけとするため、また、大会開催の周知のため、シリーズで関連情報を紹介していきます。

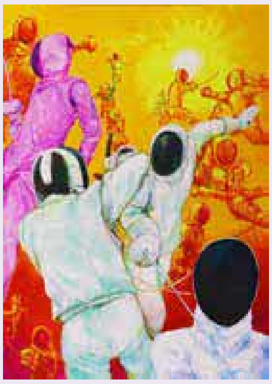
今回は、12月16日に行われたポスター原画表彰式を紹介。

令和６年６月～９月に、市内高校等にインターハイのフェンシング競技で広報等に使用するポスター図案を募集しました。

応募作品は計８点。安来市実行委員会では、この力作を審査し最優秀賞１点、優秀賞２点、佳作２点を選出しました。

最優秀賞を獲得した小林さんは「高校生の熱さを表現しました。人物が多く時間はかかりましたが、さまざまな構図を描き込めました」と話しました。小林さんの作品は、ポスターやプログラム表紙等に使用します。

また、最優秀賞・優秀賞受賞作は安来庁舎に展示中で、２月初旬～下旬は安来市民体育館で展示を予定しています。



▶最優秀賞（安来高校 小林耕太郎さん）

▼表彰式の様子（右から、槇原さん、宮本さん、田中市長、小林さん）

▲優秀賞（右：情報科学高校 宮本凛音さん、左：安来高校 槇原心寧さん）